九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

「超高速ネットワークを利用したアジア遠隔医療プロジェクト」TEMDEC (Telemedicine Development Center of Asia)活動報告 : 第14巻

https://doi.org/10.15017/4403553

出版情報：「超高速ネットワークを利用したアジア遠隔医療プロジェクト」 TEMDEC活動報告. 14, 2018-03. TENDEC Office
バージョン：
権利関係：

KYUSHU UNIVERSITY

1. はじめに

今年度はアジア太平洋先端ネットワーク会議（APAN）医療ワーキンググループ（Med-WG）の役員が 2 年ぶりに刷新されました。APAN はアジアでの遠隔医療活動においては最も重要な活動基盤です。遠隔医療活動を各国内の地域へも広く展開していくために各国における遠隔医療グループの結成が重要視され、Med-WG 認定プログラム（Special Interest Group: SIG）と共に Med-WG 内で組織されていくことは注目すべき点です。

プログラムの領域および地理的拡大は常に右肩上がりで、本年度も 134 回のプログラム実施し、新たに接続された施設も 23 ヶ国、65 施設でした。これまでの合計は 62 ヶ国、574 施設、856 回のプログラムとなります。今後期待される地域としてアジアではミャンマーやブータン、アジア以外ではアフリカ、ロシア・中央アジア、ミクロネシア諸島などが新たなターゲットとなりそうです。今年度世界消化器病学会からこれらの世界的な遠隔医療活動に対し「Master of the WGO（最高栄誉賞）」を日本人として初めて受賞しましたが、それは取りも直さず今後の活動の展開への期待でもあります。

九大病院の国際活動に関しては研究者の受入れも 1 年間で 50 名を突破し、エンジニアも 6 名受入れています。今年度は婦人科、皮膚科、泌尿器科、リハビリテーション部、看護部などにも研修をお願いしました。また小児科、神経内科、循環器内科などでは定期的な遠隔プログラムを組んでいただき、活動は病院全体へと広がっています。

活動から 15 年を迎えた今、通信情報技術の絶え間ない進歩や新たな医療ニーズに対し、大きな転換期を迎えているのではないかと感じています。一つは、「技術からプログラムへ」の転換です。これまでは医療画像の伝送において十分な質を担保することが難しく、他の施設では困難なことが数多くありました。我々がそれを技術的にお手伝いし、一緒に活動をしてきました。しかしながらこれからはさらに技術が進化し、誰でもできる時代がすぐそこに来ています。ニーズを的確に捉えたプログラムの質の重要性がこれまで以上に問われることになります。またもう一つは、「教育から診療へ」の転換です。恐らく 4 月からは日本でも遠隔診療が保険収載され、いわゆるオンライン診療が大きくクローズアップされることになります。これまでの膨大な遠隔「教育」での実績と経験を元に、遠隔「診療」をもう一つの柱に据える必要があります。TEMDEC の立ち位置や役割を熟慮し、新たなニーズに合った姿への変革が必要な時期に来ています。

今年は 11 月に第 22 回日本遠隔医療学会（第 12 回アジア遠隔医療シンポジウムとの合同開催）が予定されています。時代の新たな幕開けに相応しい会にしたいと思います。皆様の益々のご支援をよろしくお願い致します。

平成 30 年 3 月

九州大学病院 国際医療部 アジア遠隔医療開発センター　センター長

清水周次